

教員研修もオンライン

個人面談で悩み聞き助言

＝ 県 ＝

遠隔授業のシステムを活用した新人教諭のオンライン研修が29日、坂井市の県教育総合研究所で始まった。長年教へんをとってきた研究所の職員が、画面越しの個人面談で悩みを聞き、授業の進め方などについてアドバイスを送った。

これまで、新人教諭の研修は一カ所に集まり、1泊2日で行われていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、初めてオンラインとした。7月17日まで県公立学校の新採用、2年目の教諭計343人が15分ずつの面談を受ける。

この日は、14人の中学教諭が各学校から参加した。教員研修課長で、教諭歴約30年の森田史生さんが「授業は慣れましたか」と聞かれると、足羽中の社会科教諭の笠羽祥太さんは「パワーポイントを使った授業をしているが、説明ばかりになってしまっ」と打ち明けた。森田さんは「パワーポイントは授業の導入部分で使い、その先は子どもたちに考えさせるような構成にすればどうでしょうか」と提案していた。

別の中学校教諭は「学校での空き時間が少なく、教材研究が追いつかない。単元を見通した授業をするのは難しい」と吐露。森田さんは「一度に全部はできない。まずは1年生の授業から挑戦してみれば」と声を掛けていた。

森田さんは「部活動で困っていることは?」「職員室の雰囲気は?」「相談相手はいますか?」「学校に行く時間、帰る時間は?」と幅広く質問し、新人教諭の悩みをすくい上げていた。

8月からは、5〜6人の教諭による遠隔型のグループ面談を実施し、学習指導

オンラインで行われた新人教諭の研修＝29日、坂井市の県教育総合研究所



や学級経営などについて継続的に学んでもらう。

(堀英彦)